

【4-10 SR レポートのまとめ】

CQ1 挙児希望の乳癌患者に対し胚（受精卵）または未受精卵の凍結保存を提案することは推奨されるか？

1 件のコホート研究、2 件のケースコントロールスタディと 5 件のケーススタディから、

- ・妊娠率
- ・生児獲得率
- ・手技完了までの期間
- ・手技による合併症
- ・費用
- ・治療開始までの期間
- ・再発率（無病生存期間）
- ・生存期間、の 8 つのアウトカムについて検討した。

益：妊娠率、生児獲得率は、乳癌の対照群（妊孕性温存をしなかった群）と直接比較したものはなかったが、乳癌でない同世代女性と比較して凍結胚移植当たりの出産率は差がないとする報告があった。ただし、海外では代理母による妊娠出産が可能であることに注意が必要。

害：手技完了までの期間・手技による合併症・治療開始までの期間・再発率（無病生存期間）・生存期間において妊孕性温存により害となる報告は認めなかった。費用については文献がなく評価できなかった。